発行日:2024 年 11 月 1 日

安全データシート(SDS)

1. 製品及び会社情報

製品名: パイロノックグリース

会社名: 平和テクニカ株式会社

住所: 〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町 2-48-4
担当部門: ファインカット営業部
電話番号: 046-251-3755
FAX 番号: 046-255-5840
Mail アドレス: info@heiwa-tec.co.jp
緊急連絡先: 同上
受付日時: 月曜日～金曜日 9:00～17:00

作成年月日: 2022 年 5 月 24 日

改訂年月日: 2024 年 5 月 22 日

用途: 潤滑用グリース

2. 危険有害性の要約

GHS分類: ※下記に記載のないものは「区分に該当しない」または「分類できない」

物理学的危険性: —

健康に対する有害性: 皮膚感作性 区分 1

環境に対する有害性: 水生環境有害性 短期(急性) 区分3

水生環境有害性 長期(慢性) 区分3

GHS ラベル要素

シンボル

注意喚起語: 警告

危険有害性情報: アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
水生生物に有害
長期継続的影響によって水生生物に有害

注意書き:

安全対策: すべての安全注意(SDS 等)を読み理解するまで取扱わないこと。
保護手袋、保護眼鏡、保護マスク等の保護具を適切に着用すること。
眼に入れないこと。 飲み込まないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。
環境への放出を避けること。
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

応急処置: 飲み込んだ場合: 直ちに医師に連絡すること。
飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。 無理に吐かせないこと。
眼に入った場合: 多量の流水で洗顔し、直ちに医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合: 多量の水と石けんで洗うこと。
皮膚刺激又は発疹が生じた場合: 医師の診察/手当を受けること。
汚染された衣類は脱ぎ、再使用する場合は洗濯すること。

保管: 直射日光を避け、涼しく換気の良い場所に保管すること。
一度栓を開けた容器は必ず密栓しておくこと。

廃棄: 内容物や容器を廃棄する際には、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

---

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区分: 混合物

化学名又は一般名: 潤滑用グリース

成分

組成物質名	CAS 登録番号	濃度又は濃度範囲
潤滑剤基油(鉱物油)	非開示	80 ～ 90%
増ちょう剤	非開示	1 ～ 10%
潤滑油添加剤	非開示	1 ～ 20%
鉱油(添加剤)	非開示	0.1 ～ 0.9%
硫化(2,4,4-トリメチルペンテン)	非開示	1.2%

労働安全衛生法(第57条 表示・通知対象物):168: 鉱油 80～90%

化学物質排出把握管理促進法(PRTR 法): 第一種指定化学物質 硫化(2,4,4-トリメチルペンテン)

毒物劇物取締法: 非該当

---

4. 応急措置

吸入した場合: 新鮮な空気の場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 体を毛布等でおおい、保温して安静を保ち、直ちに医師の診断/手当を受けること。
呼吸が止まっている場合及び呼吸が弱い場合は、衣類をゆるめ、呼吸気道を確保した上で人工呼吸を行う

皮膚に付着した場合: 皮膚刺激又は発疹が生じた場合: 医師の診察/手当を受けること。
汚染された衣服を脱ぎ、再使用する場合は洗濯をすること。
必要に応じて汚染された衣服や靴を脱ぎ、皮膚を多量の水と石けんでよく洗い流す。

眼に入った場合: 清浄な水で数分間注意深く洗う。 次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。 その後も洗浄を続け最低15分洗浄した後、医師の診断/手当を受ける。

飲み込んだ場合: 無理に吐かせず、必要に応じて医師の診断/手当を受ける。 口の中が汚染されている場合は、水で十分洗う。

最も重要な徴候及び症状: 飲み込むと下痢、嘔吐する可能性がある。 目に入ると炎症を起こす可能性がある。 皮膚に触れると炎症を起こす可能性がある。 ミストを吸入すると気分が悪くなることがある。

応急処置をする者の保護: 現在のところ有用な情報なし

医師に対する特別な注意事項:
現在のところ有用な情報なし

---

5. 火災時の措置

消火剤: 霧状の強化液、泡、粉末又は炭酸ガス消火剤が有効である。 初期の火災には、粉末、炭酸ガス消火剤を用いる。 大規模火災の際には、泡消火剤を用いて空気を遮断することが有効である。

使ってはならない消火剤: 棒状水の使用は、火災を拡大し危険な場合がある。

火災時の特定危険有害性: 現在のところ有用な情報なし

特定の消化方法: 火元の燃焼源を断つ。 周囲の設備等に散水して冷却する。 火災発生場所

の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。

消化を行う者の保護: 消火作業の際は、風上から行い必ず保護具を着用し、皮膚への接触が想定される場合は、不浸透性の保護具及び手袋を着用する。

---

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項

保護具及び緊急時処置: 作業者は適切な保護具(【8.ばく露防止及び保護処置】の項を参照)を着用すること。

環境に対する注意事項: 環境への放出を避けること。 漏出物が下水道・河川等に流出し、二次災害・環境汚染を起さないよう注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材:

全ての着火源を取り除き、漏洩箇所の漏れを止める。 危険地域の周辺にはロープを張り、人の立ち入りを禁止する。 少量の場合は、土砂、ウエス等に吸着させ回収し、その後完全にウエス等で拭き取る。

大量の場合は、漏洩箇所の周辺には、ロープを張るなどして人の立ち入りを禁止し、漏洩物は土砂等でその流れを止め、安全な場所に導いた後、出来るだけ空容器に回収する。

二次災害の防止策: 漏洩時は事故の未然防止及び拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。

付近の熱、炎、スパークなど着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。

---

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術対策: 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

火花、炎、高温体との接触を避けるとともに、みだりに蒸気を発散させないこと。

皮膚に触れたり、眼に入る可能性がある場合は保護具を着用する。

静電気対策を行い、作業衣、靴等も導電性のものを用いる。

危険物が残存している機械設備等を修理、又は加工する場合は、安全な場所において危険物を完全に除去してから行う。

容器から取り出す時はポンプなどを使用すること、細管を用いて口で吸い上げてはならない。 飲まない。

ミストが発生する場合は、呼吸器具等を使用してミストを吸入しない。

容器は必ず密閉すること。

局所排気・全体換気: 室内で取扱いを行う場合は、十分な換気を行う。 換気装置を付ける場合は防爆タイプを用いる。 屋外では出来るだけ風上から作業すること。

安全取扱注意事項: 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。

製品から発生した蒸気は空気より重いので滞留しやすい。 そのため換気及び火気などへの注意が必要である。

容器を開ける際は手を切る恐れがあるので、保護手袋を着用する。

接触回避: ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質と接触しないよう注意する。

ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質との接触

衛生対策: 取り扱い後はよく手を洗うこと。

保管

安全な保管条件: 直射日光を避け、涼しく換気の良い場所に保管すること。 熱、スパーク、火炎並びに静電気蓄積を避ける。 保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。 ゴミ、水分などの混入防止のため使用後は密栓して保管する。 保管場所は施錠して保管することが望ましい。ハロゲン類、強酸類、

アルカリ類、酸化性物質との接触並びに同一場所での保管を避ける。

安全な容器包装材料: 容器に圧力をかけない。 圧力をかけると破裂することがある。 容器は溶接、加工、穴あけ、または切断を行うと、爆発を伴って残留物が飛散することがあるので注意する。

---

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策: ミスト及び蒸気が発生する場合は発生源の密閉化、又は排気装置を設ける。
取扱場所の近くに、目の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置する。

許容濃度:

管理濃度: 規定なし(作業環境評価基準: 労働省告示第 26 号、平成 7 年 3 月 27 日)

許容濃度: 日本産業衛生学会
時間荷重平均 3mg/m3 (Mineral oil Mist)
ACGIH
時間荷重平均 TLV-TWA 5mg/m3 (Mineral oil Mist)

保護具:

呼吸器用保護具: 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
通常必要ではないが、必要に応じて防毒マスク(有機ガス用)を着用する。

手の保護具: 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
長期又は繰り返し接触する場合は耐油性のものを着用する。

眼の保護具: 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
飛散する場合には保護眼鏡等を着用する。

皮膚及び身体の保護具: 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
長期又は繰り返し接触する場合は耐油性の長袖作業着等を着用する。

適切な衛生対策: 濡れた衣服は脱ぎ、完全に洗浄してから再使用する。

---

9. 物理的及び化学的性質

形状:	半個体
色:	淡黄色
臭い:	僅かな臭気
融点・凝固点:	滴点 250℃
沸点、初留点、沸騰範囲:	初留点－終点 データなし
可燃性:	データなし
爆発範囲:	爆発限界 推定値 1-7%
引火点:	≧190℃ セタ密閉式
自然発火点:	推定値 200-410℃
分解温度:	データなし
pH:	データなし
動粘性率:	データなし
溶解度:	水に不溶
n-オクタノール/水分配係数(log 値)	:データなし
蒸気圧:	データなし
密度及び/又は相対密度:	データなし
粒子特性:	データなし

10.安定性及び反応性

反応性: 常温で暗所に貯蔵・保管された場合、安定である。

安定性: 常温で暗所に貯蔵・保管された場合、安定である。

危険有害反応可能性: 強酸化剤との接触を避ける。

避けるべき素材や条件: 混触危険物質との接触。
混触危険物質: ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質と接触しないよう注意する。
危険有害な分解生成物: 燃焼の際は一酸化炭素等が生成される可能性がある。

11.有害性情報

急性毒性(経口): 区分に該当しない(区分外)
ラット LD50 ＞5000mg/kg (基油)
混合物については、混合物の分類に基づき、危険有害性の区分を分類した。

急性毒性(経皮): 区分に該当しない(区分外)
ラット LD50 ＞5000mg/kg (基油)
混合物については、混合物の分類に基づき、危険有害性の区分を分類した。

急性毒性(吸入): 区分に該当しない(分類対象外) (気体)
区分に該当しない(分類対象外) (蒸気)
区分に該当しない(分類対象外) (粉塵・ミスト)
ラット吸入(ミスト) LC50(4h) ＞5mg/L (基油)
混合物については、混合物の分類に基づき、危険有害性の区分を分類した。

皮膚侵食性/刺激性: 分類できない
基油についての、うさぎによる複数の皮膚刺激試験において、皮膚刺激性に区分する結果は得られていない。
基油について、長期間又は繰り返し接触した場合には、皮膚脱脂による皮膚炎を起こす可能性があるので注意すること。
混合物については、混合物の分類に基づき、危険有害性の区分を分類した。

眼に対する重篤な損傷性/刺激性:
区分に該当しない(区分外)
基油についての、うさぎによる複数の眼刺激試験において、眼刺激性に区分する結果は得られていない。
混合物については、混合物の分類に基づき、危険有害性の区分を分類した。

呼吸器感作性: 分類できない
基油について有用な情報なし。
混合物については、混合物の分類に基づき、危険有害性の区分を分類した。

皮膚感作性: 区分1
基油について、モルモットを用いた複数の試験(ビューラーテスト)において、いずれも感作性無しとの結果が得られている。
混合物については、混合物の分類に基づき、危険有害性の区分を分類した。

生殖細胞変異原性: 分類できない
基油の AMES 試験において MutagenicityIndex(MI)値が 0.0 との報告がある。
基油について広範囲な変異原性試験(in vivo 及び in vitro)が実施されているが、大部分の結果から変異原性を示す結果は得られておらず、生殖細胞変異原性なしと判断する。
混合物については、混合物の分類に基づき、危険有害性の区分を分類した。

発がん性: 分類できない
IARC では、高度精製油はグループ 3(人に対する発がん性について分類できない)に分類され、ACGIH の提案もほぼ同様の分類と言える。 EU による評価では、発がん性物質としての分類は適用される必要はない。

生殖毒性: 分類できない
基油について、ラットにおける複数の発育毒性および生殖毒性試験において、発育毒性および生殖毒性を示す結果は得られなかった。
混合物については、混合物の分類に基づき、危険有害性の区分を分類した。

特定標的臓器毒性(単回ばく露):

分類できない

基油について、急性試験による各種特定臓器への単回ばく露毒性は認められていない。

混合物については、混合物の分類に基づき、危険有害性の区分を分類した。

特定標的臓器毒性(反復ばく露):

分類できない

基油について、経皮および吸入投与による 4 週間から 2 年間の反復毒性試験を行ったが、全身に対する影響は確認されなかった。

混合物については、混合物の分類に基づき、危険有害性の区分を分類した。

誤えん有害性: 分類できない(区分外)

40℃の動粘性率が 20. 5mm2/s 以下の炭化水素に該当しないため分類されない。

混合物については、混合物の分類に基づき、危険有害性の区分を分類した。

その他の情報: 混合物については、情報なし

12.環境影響情報

生態毒性:

急性毒性: 区分3

魚類: 水にはほとんど溶解しないため、水生生物への汚損を生じる。

魚類(ファットヘッドミノー 96 時間) LL50 ＞100mg/L(基油)

基油は難水溶性のため、上記試験においては調整された WAF(水適応性画分)を試料として使用している。

上記試験結果から基油について水生環境急性有害性なしと判断する。

混合物については、混合物の分類に基づき、危険有害性の区分を分類した。

慢性毒性: 区分3

魚類: 水にはほとんど溶解しないため、水生生物への汚損を生じる。

魚類(ファットヘッドミノー 14 日間) NOEL ＞100mg/L(基油)

微生物の発光試験(4 日間)による発光の抑制は確認されなかった(基油)。

基油は難水溶性のため、上記試験においては調整された WAF(水適応性画分)を試料として使用している。

上記試験結果から基油について水生環境慢性有害性なしと判断する。

混合物については、混合物の分類に基づき、危険有害性の区分を分類した。

残留性・分解性: 基油について、生分解試験結果は 31%(28 日間)であることから、本質的生分解性を有するが、易生分解性ではないと判断する。

生体蓄積性: 基油についての有用な情報なし

土壌中の移動性: 基油について、類似基油の log KOC は 3 以上と推測され、地表で漏出した油は土壌に吸着されることにより地下水へ流出することは考えにくい。

オゾン層への有害性: 分類できない

他の有害影響: 微生物の発光試験(4 日間)による発光の抑制は確認されなかった(基油)。

13.廃棄上の注意

廃棄方法: 内容物/容器を国際/国/都道府県/市町村の規制に従って廃棄すること。 事業者は産業廃棄物を自ら処理するか、廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃棄物処理法)に従い都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合はそこに委託して処理する。 投棄禁止。埋立処分を行う場合には、あらかじめ焼却設備を用いて焼却し、その燃えがらについては、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令」に定められた基準以下であることを確認しなければならない。

燃焼する場合は、安全な場所で、かつ、燃焼または爆発によって他に危害または損害を及ぼす恐れのない方法で行うと共に、見張り人をつける。
容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切に処理すること。 空容器を廃棄する場合は内容物を完全に除去した後に処分する。

14.輸送上の注意

国連分類: 非該当

国内規制: 陸上輸送 消防法危険物には該当しないが、火気に注意をする。
海上輸送 船舶安全法 非危険物(個別運送およびバラ積み運送に於いて)
航空輸送 航空法 非危険物

特別な安全上の対策: 容器が著しく摩擦又は動揺を起こさせないように運搬する。

15.適用法令

労働安全衛生法(第57条 表示・通知対象物):
168: 鉱油

化学物質排出把握管理促進法(PRTR 法):
第一種指定化学物質 硫化(2,4,4-トリメチルペンテン)

毒物及び劇物取締法: 非該当

水質汚濁防止法: 油分排出規制

下水道法: 鉱油類排出規制

海洋汚染防止法: 油分排出規制

廃棄物の処理及び清掃に関する法律:
産業廃棄物規則

16.その他の情報

参考資料

経済産業省 事業者向け GHS 分類ガイダンス

独立行政法人製品評価技術基盤機構(NITE) GHS 関連情報、SDS 関連情報

安全衛生情報センター GHS のシンボルと名称 危険有害性、区分、シンボル、注意喚起語、危険有害性情報早見表

JIS Z 7253:2019 GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法―ラベル, 作業場内の表示及び安全データシート(SDS)

原料 SDS

免責文

この情報は法令の改正及び新しい知見に基づき改正されることがあります。 記載情報は現時点で入手できた資料、情報、データ等に基づいて作成しておりますが、含有量、物理・化学的性質、危険・有害等に関してはいかなる保証をなすものではありません. 注意事項は通常の取扱いを対象としたものであって、特殊な取り扱いの場合は、用途、用法に適した安全対策を実施のご配慮をお願い致します。